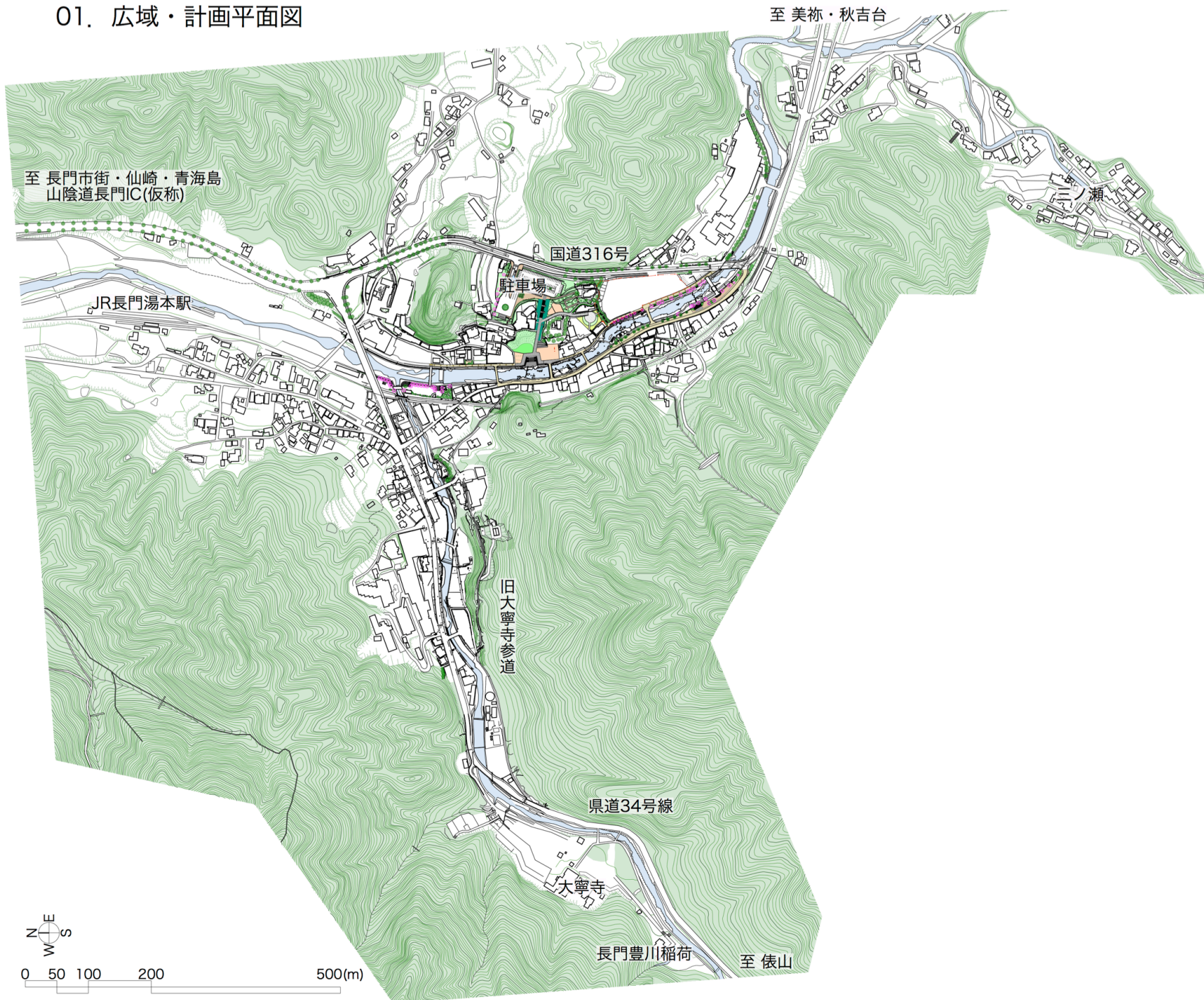
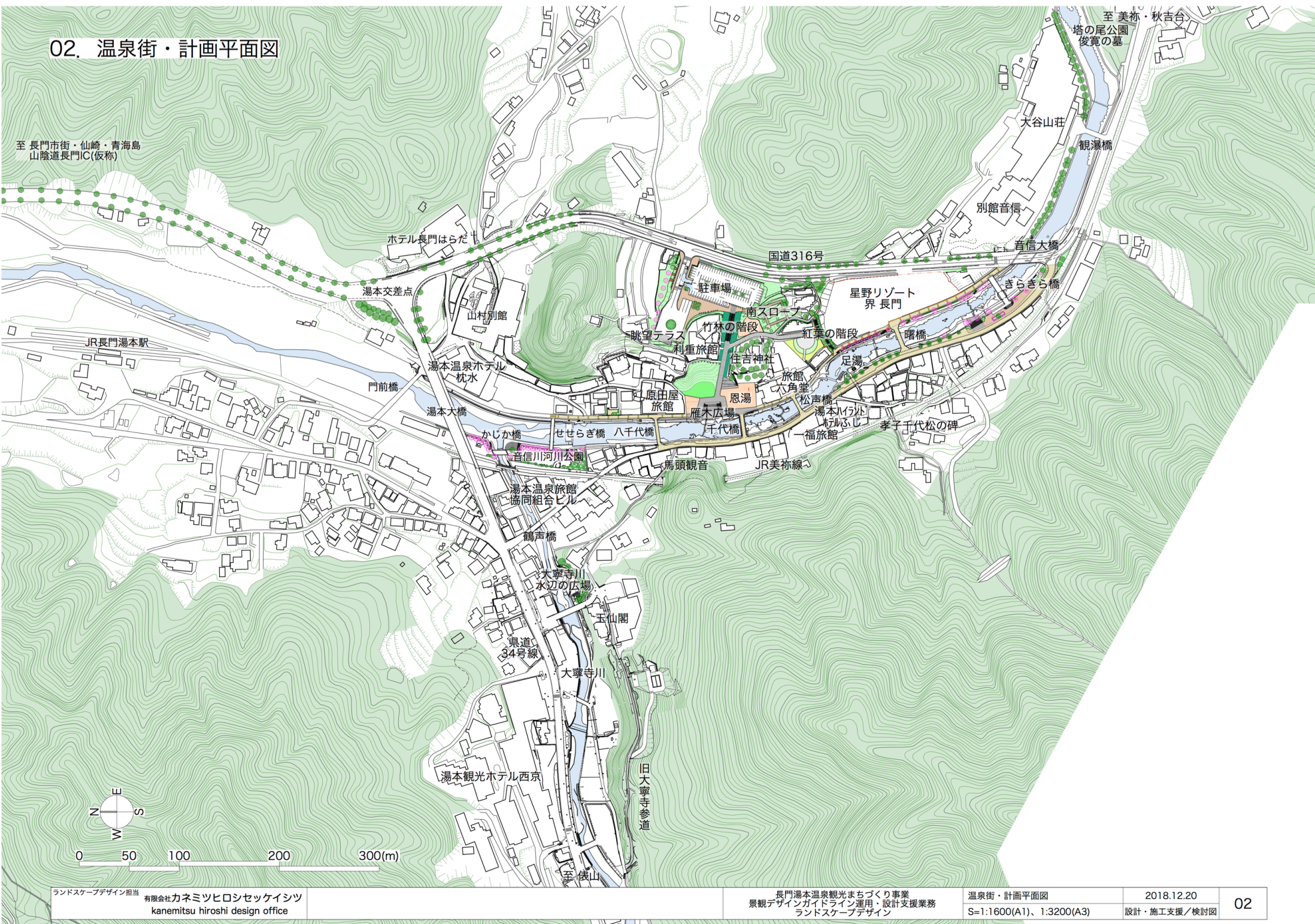


## 01. 広域・計画平面図



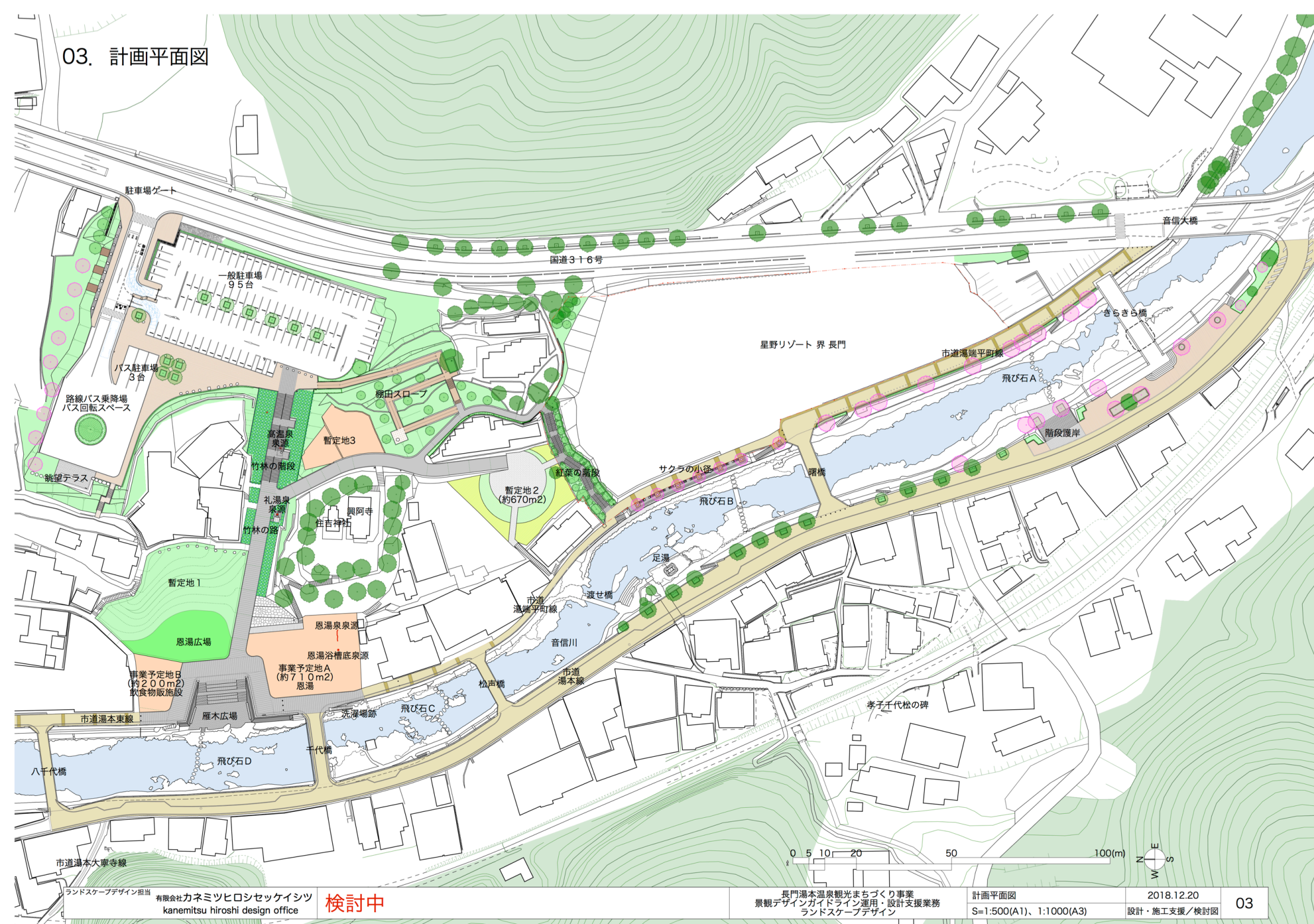


## 02. 温泉街・計画平面図





### 03. 計画平面図





## 04. 棚田スロープ・計画変更

～地元名産の「長門ゆずきち」を植樹して、棚田の新たな風景を創出～

- ・地元特産品のPR／収穫などイベント活用
- ・植栽にあたっては視線を遮りすぎないよう配植する。
- ・成木植付けは課題があるためH1m内外の苗木を植栽。
- ・将来形はH2m程度として収穫しやすい大きさを保ち維持管理を行う。



棚田スロープ・イメージパース

長門ゆずきち



## 05. 礼湯泉源広場の提案

～礼湯泉源の記憶継承の場～

### ■基本的な考え方

- ①武士や僧侶が利用する高位の湯  
→格にふさわしい場の創出／自然石による構成
- ②礼湯～恩湯～音信川のつながり  
→恩湯や音信川への方向性を表現
- ③大寧寺への意識  
→大寧寺への軸を表現
- ④周辺地形との関係  
→雨水や土が流れ込まないコの字型基壇  
→泉源広場から雨水を自然勾配で下流に排水  
(落ち葉や土も下流へ掃き出される維持管理の容易さ)
- ⑤新たに整備する竹林との関係  
→竹林に付むような雰囲気づくり
- ⑥泉源への影響配慮  
→構造的に泉源への影響を与えない施設づくり
- ⑦記憶の継承  
→礼湯の歴史などを記したサインプレートの設置





## 06. 市道湯本線・既存ヤナギの現状維持

○平成28年8月にまとめられた長門湯本温泉観光まちづくり計画では、ヤナギをサクラに置き換え、上流のサクラ並木を延伸して観光地としての魅力アップを図るとしていた。

↓  
○エリア交通計画による市道湯本線の歩行者空間幅員拡大をうけて、あらためて既存ヤナギの扱いを再検討した。11月18日開催の住民WSでも確認のうえ既存ヤナギを現状維持とする。

- ・サクラに比べ派手さはないが水辺の樹木としてふさわしい。
- ・既存ヤナギの大木を保存、継承できる。
- ・生長が早く葉が歩行者に触れやすいが、幅員拡大により影響は軽減される。
- ・サクラに置き換える場合、護岸構造への影響から既存ヤナギの伐根処理が課題となる。



## 07. 市道湯本線の路面構成提案

～脱色アスファルト舗装、  
溶融焼付塗装白線、段差解消～

- ・日常的に車輛動線となるため耐久性、維持管理、景観等の観点から脱色アスファルト舗装を基本とする。
- ・将来的に道路利活用区間が変更となる場合もあるため、舗装パターンは設けず、白線は一般的な塗装とする。
- ・一部区間に残る歩車道境界の段差は無しとして整備する。
- ・きらきら橋周りは、新規に整備された階段護岸から撤去される旧バス停上屋区間までの歩道拡幅を行い、新たに利活用できる場として整備する。  
舗装はインターロッキングブロックとする。



既存ヤナギ(曙橋から下流側)



既存ヤナギ(曙橋から上流側)



脱色アスファルト舗装  
(とらや前～国道316号)



インターロッキングブロック舗装  
(きらきら橋周辺)



## 08. 市道湯本東線の路面構成提案

～脱色アスファルト舗装＋自然石小舗石ボーダー舗装～  
(湯端平町線と同デザイン)

- ・交通量は少ないが日常的に車輛動線となる路線である。耐久性、維持管理、景観等の観点から脱色アスファルト舗装を基本とし、アクセントとして約10m間隔を目安として1m幅のボーダーを設ける。
- ・ボーダー舗装は車輛の荷重分散の観点から小舗石舗装とする。  
色は脱色アスファルトと同系色の錆色を基本とする。
- ・白線はメインエリアから延伸する区間となるため自然石舗装（白色）を基本とする。

